

# R4年度 全国学力学習状況調査結果報告 R4.9.5

本年度、4月19日（火）に6年生を対象に実施された全国学力学習状況調査について報告します。7月の学校評価アンケートと合わせて御確認ください。

## 1 学力調査についての結果と分析

全国平均の正答率との比較を下記のように示しています。

☆得意な傾向が見られる      ○平均である      ▽苦手な傾向が見られる

### 【国語】

#### ① 観点別の結果

観 点	言葉の特徴や使い方に関する事項	我が国の言語文化に関する事項	話すこと・聞くこと	書くこと	読むこと
全国との比較	☆	☆	☆	☆	☆

#### ② 問題形式別の結果

問題形式	選択式 選択肢から選んで回答する問題	短答式 言葉や漢字などを回答する問題	記述式 文章で説明して回答する問題
全国との比較	☆	☆	☆

#### ③ 成果と課題

◎すべての項目で全国平均の数値を上回ることができた。中でも、問題形式の記述式は、全国正答率を10ポイント以上上回っていた。

△漢字の定着が不十分な傾向にあった。

#### ④ 今後の対策

◇授業のまとめなどを活用し、条件を考えながら回答する場を増やした成果が記述式の正答率に結びついたと思う。しかし、条件が足りず誤答になっている解答もまだ多いため、今後も条件を満たして記述することに慣れるようにしていく。

◇日常的な漢字の活用を進めるとともに、漢字の意味を理解したり、送り仮名に注意したりできるよう、漢字テストやチャレンジテストの問題を工夫していく。

### 【算数】

#### ① 観点別の結果

観点	数と計算	図形	変化と関係	データの活用
全国との比較	☆	☆	☆	☆

#### ② 問題形式別の結果

問題形式	選択式 選択肢から選んで回答する問題	短答式 計算や数などを回答する問題	記述式 文章で説明して回答する問題
全国との比較	☆	☆	☆

#### ③ 成果と課題

◎すべての項目で全国平均の数値を上回ることができた。

△割合の問題の正答率がやや低い傾向にあった。

#### ④ 今後の対策

◇問題から数量関係を正しくつかんで解答することができるよう、図や表に表して考えることを普段から行い習慣化していく。

◇児童質問紙の結果より、算数の学習内容の「生活における活用を考えているか」の数値がやや低いことから、学習内容が日常生活にどのように生かされているか広げて考える場を設定する。

【理科】

① 観点別の結果

観点	IT・IT <sup>*</sup> -を柱とする領域	粒子を柱とする領域	生命を柱とする領域	地球を柱とする領域
全国との比較	☆	☆	☆	☆

② 問題形式別の結果

問題形式	選択式 選択肢から選んで回答する問題	短答式 計算や数などを回答する問題	記述式 文章で説明して回答する問題
全国との比較	☆	▽	☆

③ 成果と課題

◎観点別の結果では、すべての項目で全国平均の数値を上回ることができた。特に「地球を柱とする領域」では、10ポイント以上上回っていた。

△短答式での回答が苦手傾向にあるという結果だった。これは「メスシリンダー」という器具の名前の正答率の低さが反映されている。

④ 今後の対策

◇専門用語を正しく覚えられるよう、実験などを行う際は、器具の名前を確認するなどして繰り返し使うことで正しく覚えられるようにする。

◇児童質問紙の結果より、理科の学習内容の「生活における活用を考えているか」や「理科や科学技術に関する職に就きたいと思うか」の数値がやや低いことから、生活と学習内容を結び付けて考えるようにすることで、科学的な事象や自然などに興味をもてるようにする。

2 児童質問紙について ( ◎⇒本校児童の特により表れ △⇒改善していきたい表れ )

① 項目別の結果

【生活習慣に関すること】

◎「早寝 早起き 朝ご飯」を意識した規則正しい生活をしている児童が多かった。

△携帯・スマホ・パソコンの使い方について、家の人と約束したことを守っていると回答した児童がやや少なかった。また、1日のゲーム時間がやや長い傾向にあった。

【自己認識に関すること】

◎先生は、あなたのよいところを認めてくれていると強肯定で回答する児童が多かった。

◎自分でやると決めたことは、やり遂げるようにしていると回答した児童が多かった。

◎難しいことでも、失敗を恐れないで挑戦していると回答した児童が多かった。

△将来の夢や目標をもっていると強肯定で回答する児童も多いが、反面、将来の夢や希望をもっていないと回答する児童の割合も全国と比較するとやや多い傾向にあった。

【学校に関すること】

◎友達と協力するのは楽しいと感じる児童が多かった。

◎学校に行くのは楽しいと思うと強肯定する児童が多かった。

【家庭学習や地域に関すること】

◎学校の授業以外に本に親しんでいる児童が多く、読書が好きと強肯定で回答した児童も多かった。

◎今住んでいる地域の行事に参加している児童が多かった。

△家で自分で計画を立てて学習していると回答した児童がやや少ない傾向にあった。

△新聞を読まない又はほとんど読まないと回答した児童が多かった。

【授業に関すること】

◎授業におけるICT 機器の使用頻度が高く、それらが勉強に役立つと考えている児童が多かった。

◎学級生活をよりよくするために学級会で話し合い、互いの意見のよさを生かして解決方法を決めていると回答した児童が多かった。

◎道徳の授業では、自分の考えを深めたり、話し合い活動に取り組んだりしている児童が多かった。

◎課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいる児童が多かった。

◎各教科などで学んだことを生かしながら、自分の考えをまとめる活動を行っていたと回答した児童が多かった。

◎学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていると回答した児童が多かった。

◎国語や算数の授業が好きな児童が多く、授業の内容がよくわかると回答した児童も多かった。

△友達と交流したり、考えをまとめて発表したりする場面で ICT を活用したと回答した児童はやや少ない傾向にあった。

△理科を好きと回答したり、将来役立つ又は生活で活用できると考えたりする児童が少ない傾向だった。また、将来、理科や科学技術に関係する職業に就きたいと思うと回答した児童も少なかった。

## ② 成果と課題

◎肯定の回答が多く、真面目で素直で前向きな加茂っ子の様子が現れていた。

◎規則正しい生活や本に親しむなどの生活習慣が、学力の定着に結びついている児童が多かった。

◎努力したり挑戦したりすることができる児童が多かった。家庭や地域が子どもたちを温かく支えてくださっていることが、子どもたちの心の支えとなっていると考える。

◎学級活動や道徳の授業を中心に、話し合い活動で考えを深めたり問題解決したりすることができた。

◎授業での ICT の活用場面が多く、勉強の役に立つと考えている児童が多かった。

◎国語や算数についての肯定的な回答が多かった。

△多くの児童が肯定的な回答をする一方で、否定的な回答をする児童もあり、意識の 2 極化が見られる。

△ICT の活用は盛んだが、調べ学習中心で、友達との意見交換や発表で使っているのは少なかった。

## ③ 今後の対策

◇学校の目指す方向として今後も「人権」をキーワードに、一人一人を大切にする教育を推進していく。

◇「すべての子どもたちの可能性を引き出す個別最適な学びと協働的な学びの実現」を目指し、教育活動を進化させていくことで、児童の自尊感情の向上や学校生活の充実へつなげる。

⇒ICT の活用場面を広げ、授業での困り感を減らしていく。

⇒特別活動を軸に、児童の主体性を引き出し、自分のよさを生かして活動したり、友達と協力しながら問題解決する経験を積んだりして自尊感情を高めていく。

担当：(教務主任) 岡本 寿実

電話：35—3347